



### こだわりを捨てて

何世代と一緒に暮らしていた時代には、人が老いることは自然なこととして「敬老の日」などもとりわけ意識していなかったように思います。今は孫の幼稚園に招待されたり、手作りのカードを貰ったりして「おじいちゃん」と呼ばれることには抵抗はありませんが、年々そのカードの孫の字が上手になっていくのに比例して、我が身の老いも加速度を増し、昔歌っていた「♪今年60のおじいさん♪」が、思えば生まれ出たそのときから確実に老いてきている人のことであり、老いは成長の一部なのだ気づかされます。

\* \* \*

長寿を祝う言葉は「賀寿」といい、還暦、古稀、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、百寿と、おめでたいこととされていますが、心からそう思っている方はおられるでしょうか。

若さを取り戻し老いに抗えるような情報があふれている現代社会の中で、今は何とか自分で日暮しができている人も、やがて出来なくなる不安の中で、また介護を受けながらの人は、少しでも迷惑をかけずに……と踏ん張ってきたのが叶わなくなる戸惑いを経て、今を生かされているとの思いでおられるのでは

ないでしょうか。

平均寿命を高くしている一番の要因は、高齢者が増えたことばかりではありません。一番には赤ちゃんの死亡率が低くなったことと、若い戦死者がいないことです。長寿のお年寄りも昔もおられたのです。

お釈迦様が悟られた「老病死」は、いかに時代が進歩しても、生を受けたものの、思うようにいかない、逃れられない真理であり、その「いのち」を生きる今が生きている私なのです。

\* \* \*

88歳まで生きられた江戸時代の禅僧・仙厓は「老人六歌仙」と題して歌を残しています。

しわがよるほくろがでける  
腰曲がる。頭がはげるひげ  
白くなる。手は振るう足は  
よるつく歯は抜ける。耳は  
聞こえず目はうとくなる。  
身に沿うは頭布襟巻杖眼鏡  
たんぼ温石しゅびん孫の手。  
聞きたがる死にとむながる  
淋しがる。心は曲がる欲深  
くなる。くどくなる気短に  
なる愚痴になる。出しゃば  
りたがる世話やきたがる。  
またしても同じ話に子を誉  
める。達者自慢に人はいや  
がる。 (現代訳)

まさしくその通りですが、老いの悲哀溢れる禅味にホッとさせられます。

長寿はめでたくもありますが

辛く悲しいことも多くなります。そして、残念ながら短く終る命も寿命です。ハツラツとしていなければいけないと願ったりこだわるのは、そうでないものの否定になり、必ず衰える自分自身も惨めにします。それは老いも若きも同じなのです。

弱ったふりをしたり、いじけて生きるのは、人生をつまらなくするのと同じように、ハツラツを「好し」とし願い装い続けることも無理のある傲慢な人生です。老病死は異常事態ではなく、生きているものの正常な過程です。それを示すのが先往くものの姿だったのです。

仏教には「仏心とは大慈悲これなり」と説かれ、すべての人々に対する「思いやりのこころ」です。慈悲というのは、「ともに喜び、ともに悲しむ」ということです。すから、せっかく縁あって同じ時代に同じ人間同士として生まれてきたのに、「こうでなければならぬ」「こうでない人は価値がない」などというこだわりが、今はやりのブーメラン現象のように、必ず自分を貶めることになります。

いただいた命を生きる私たちには、お互いができることを助け合って共存し、一人一人が「生きていてよかった」と思えるようにと、私たちの「いのち」に託されているのです。

合掌

## 奏庵法座

日時  
10月26日(木)  
午前11時～

「真宗宗歌」  
正信偈  
住職法話  
ご文章拝読  
「恩徳讃」  
～\*～  
おとぎ

眠れぬ秋の夜長、コ～ン！  
コ～ン！とどんぐりの落ちる乾いた響きを聞いていると、なぜだかメルヘンなおとぎの国を連想させます。天候不順の雨の多い年ですが、裏山のどんぐりは豊作のようです。この恵みでいく種かの生き物がこれからの冬を生き延びることでしょう。

我々の蓄えは年を重ねた者の強さでしょうか。フルに活用して、もう一踏ん張りしましょう。

呉々もご無理なきよう、どうぞ気をつけて今月もお参り下さい。

日本村の  
100人の仲間たち

【もし、日本が100人の  
村だったら…？】

日本村に住む100人中、男性は49人、女性は51人です。

子供は、14人です。

若い人たちや、働き盛りの人は、68人。

高齢者は、18人。

日本村は、お年寄りがたくさんいる村です。

村人は、76人が仏教徒です。

でも…、

12月24日のクリスマスには、キリスト教になって、ケーキを食べ、

12月31日のおおみそかには、仏教徒に戻って、お寺へ行き、除夜の鐘をつき、

1月1日の元旦には、神道の氏子になって、初詣をします。

時と場所によってクルクル変わるので、日本村の宗教は

「万華教」といいます。

「あなたにとって一番大切なものは何？」という質問に、日本村でも世界のあちこちの村でも、

ほとんどのおばあちゃんが、「家族」と答えました。

「では、2番目に大切なものは何？」という質問に、何と答えただでしょうか？

外の村では、「信仰」という答えが返ってきました。

しかし、

日本村は

「近所づきあい」でした。

平成14年発行

吉田 浩 著より

解散総選挙の大義が「こじつけ」のまま選挙戦が進んでいる。日本人は大騒ぎをしているようで、基本的に波風を立てることを好まず、「おかしい」と思ったことをすぐ口にするのもよしとしない。そして、体制が決まると批判していたことを忘れたかのように擦り寄るし、失敗すれば「それ見たことか」と蹴落とすが、その曖昧さが農耕民族の保身なのだ。そんな国の選挙に大義は必要なく、選択は民意（民主主義）だとするための「選挙ごっこ」のように思う。■生まれる国、両親や家、それを取り巻く地域や社会を一切選べずこの世に生を受けるのは、人類みな同じなのだ。生まれながら背負わざるをえないそれらの条件は理不尽でもあるが、自ら望まず生を受けるということだけをとれば、世界中人はみな唯一出発点だけは「平等」なのだから、それに文句は言うまい。一昔前の人間の根底にはそれがきっちりあったからか、自分の身の上を憂いはせよ、親や社会のせいにする人間は少なかった。■弱者への同情。福祉の充実。楽になる。豊かになる。生きがい。などは、人を騙すときの常套手段で、それを恥ずかしげもなく口にするのは詐欺師と政治家だろうが、せめて政治を志すなら、「右派」であれ、「保守」、「革新」、「左派」であれ、人間の真に平等な部分は、「生れ出る条件を選ばず生まれてくる」ことしか「平等」ではないという厳しい真実に立って人は人生を生きているということをお忘れなさい。■先日観るともなしにチャンネルを合わせていた「エリザベス女王の回想録」にハッとすることがあった。それは女王がおっしゃったのではなく、王室を取材してきた側近のジャーナリストの、「自ら望んでそれに就いたのではない人を、人々が信頼し敬うのは、その献身の姿にある」という言葉だった。■長い時間を経て築き上げてきた人類の宝には、そのいずれにも、それぞれの分野に多くの人の誠実な献身あつてのことだ。それが望んで就いた者より望まず就いた者がもつ味なのかもしれない。またそうでなければ人は運命を受け入れられないだろう。 Norimaru